



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

平成23年度

# 輸血懇話会

日時 平成23年8月20日(土) 受付)13:00 開演)14:00

会場 イムズホール (福岡市中央区天神1-7-11 イムズ9F)

テーマ 「24時間・安全な輸血医療の構築をめざす」

講演 I 「適合血選択までの検査 ～知っておきたい知識～」

国立病院機構小倉医療センター  
臨床検査科 主任 (認定輸血検査技師) 永田 雅博

II 「当院における輸血業務改善への取り組み」

大分県済生会日田病院  
臨床検査部 主任 (認定輸血検査技師) 葦苈 巖

III 「輸血部における看護師の役割と今後の課題」

信州大学医学部附属病院  
輸血部 看護師 (学会認定・輸血看護師) 堀内 香与

IV 「救急領域での輸血療法」

九州大学病院 医療安全管理部 副部長 入田 和男

V 「細胞・臓器移植における輸血の現状」

九州大学病院 遺伝子・細胞療法部 准教授 豊嶋 崇徳

主催 九州ブロック赤十字血液センター連盟

後援 日本輸血・細胞治療学会九州支部会

福岡県医師会, 佐賀県医師会, 長崎県医師会, 熊本県医師会, 大分県医師会,

宮崎県医師会, 鹿児島県医師会, 沖縄県医師会

福岡県看護協会, 佐賀県看護協会, 長崎県看護協会, 熊本県看護協会,

大分県看護協会, 宮崎県看護協会, 鹿児島県看護協会, 沖縄県看護協会

福岡県臨床衛生検査技師会, 佐賀県臨床検査技師会, 長崎県臨床検査技師会,

熊本県臨床検査技師会, 大分県臨床検査技師会, 宮崎県臨床検査技師会,

鹿児島県臨床検査技師会, 沖縄県臨床検査技師会

## 講演要旨

【講演 I】 14:10～

「適合血選択までの検査

～知っておきたい知識～」

国立病院機構小倉医療センター

臨床検査科

主任 (認定輸血検査技師) 永田 雅博

血液型検査をなぜ2度行うのか?1度の採血では駄目なのだろうか?不規則抗体って何なの?検査に時間を要する時ってどんな時か?輸血前保存って何のため?など日常業務の疑問や不安に臨床検査技師の立場から「安全で適正な製剤を選択するまで」を分かりやすく丁寧に解説します。

【講演 II】 14:40～

「当院における輸血業務改善

への取り組み」

大分県済生会日田病院 臨床検査部

主任 (認定輸血検査技師) 葦苈 巖

当院は、平成2年10月に開院した病院である。これまでに輸血療法委員会主導のもと医療安全管理室の協力も得て、院内の業務改善や関係職種への教育研修を行い、今年2月に日本輸血・細胞治療学会のI&Aを受審することができた。どうやって組織全体を動かすことができたのか。これまでの苦悩を紹介すると共に中核病院としての地域の輸血医療についても触れてみたい。

【講演 III】 15:10～

「輸血部における看護師の役割と今後の課題」

信州大学医学部附属病院 輸血部

看護師 (学会認定・輸血看護師) 堀内 香与

当院輸血部は2008年度からそれまでの兼任体制から専従体制となった。専従体制を機に、安全確保と診療科との連携を目的に看護手順書や患者説明シートなどの業務改善を図り、血管迷走神経反射の副反応が減るなど成果をあげている。今後はその活動範囲を広げ、院内全体の輸血療法の向上にむけて、病棟ラウンドを行い、ベットサイドの教育の充実に努めたい。

【講演 IV】 15:50～

「救急領域での輸血療法」

九州大学病院 医療安全管理部

副部長 入田 和男

救急外来に大量出血症例が搬送されてきた!手術で予定外の大量出血となった!という場面に遭遇しても、「危機的出血への対応ガイドライン」に示されているような院内体制を整備し(リスク・マネジメント)、非常事態宣言・初動をシミュレーション通りに実行すれば(クライシス・マネジメント)、出血死の回避が可能です。緊急度と緊急輸血の関係は「産科危機的出血への対応ガイドライン」に示されています。

【講演 V】 16:20～

「細胞・臓器移植における輸血の現状」

九州大学病院 遺伝子・細胞療法部

准教授 豊嶋 崇徳

細胞・臓器移植は大量の輸血を必要とする治療法の代表であり、血液事業を展開するにあたり、その動向を知っておく必要があり、医療の進展に伴い、移植に対する輸血はどのように変遷したかについて報告する。また最近ではABO不適合臓器移植やHLA不適合造血幹細胞移植が増加している。このような例では、経時的に、かつ製剤毎に使用血液型が刻々と変化し、従来の一患者一血液型の原則があてはまらず、血液型管理の徹底とより密接な病院間、血液センター間の連携が求められる。